



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4300号 2018.4.4 発行

峰山乳児院付設幼児寮 完成 「普通の家」子どもたちに 門は作らず 地域とつながる



空間も /京都 毎日新聞 2018年4月2日
住民に公開された峰山乳児院付設幼児寮=京丹後市峰山町で、塩田敏夫撮影

新しい峰山乳児院付設幼児寮が京丹後市峰山町杉谷に完成し、1日、住民に公開された。「行って来ます」「お帰り」――。学校に通う子どもたちが自分の家のように感じてもらえるよう木造の「普通の家」にした。地域とのつながりを大切しようと、住民が集えるスペースも設けた。5日から子どもたちの暮らしの場となる。【塩田敏夫】

幼児寮は社会福祉法人みねやま福祉会が運営する。対象年齢は2～18歳。峰山町室の幼児寮が老朽化したため、移転する。

寮長の榎田啓さんの話では、峰山乳児院は元々は戦争孤児を受け入れることから始まった。時代の移り変わりとともにニーズも変化した。現在、子どもの70%が虐待を受けた経験があり、専門家とともに心のケアを続けている。

「福祉施設っぽい建物ではなく、子どもたちが自分の家だと自慢できるものを作ってほしい」――。榎田さんの依頼を受け、「普通の家」を設計したのが「U設計室」代表で一級建築士の大垣優太さん。子どもの時に遊んだ物や場所を思い出し、幼児寮を設計した。寮は三つの家から成り、「石ころの家」「積み木の家」「ロボの家」と名付けた。

いずれも木造で自然素材を極力使うよう心がけた。木のぬくもりが感じられる「三つの家」は延べ538平方メートル。子どもたちが直接触れられるよう珪藻（けいそう）土も使った。地元の大工が建てられるよう在来工法を用いた。大垣さんは「子どもたちの五感を刺激する家にした」と話した。

「積み木の家」と「ロボの家」にはそれぞれ6人の子どもが暮らす予定。ショートステイの場も設けた。榎田さんは「子どもたちの心の傷を癒やすためにも地域との交流を大切にしたい。そんな思いで寮には門は作りませんでした」と話した。

子どもシェルター 県内初「ピッピ」開設1年 安定した受け入れ実現へボランティア募集 14、15日研修会 /埼玉

毎日新聞 2018年4月2日

虐待などで家庭に居場所を失った子供が避難する県内初の子どもシェルター「ピッピ」が開設され、1年がたった。これまでに複数の子供を受け入れて支援につなげたが、人員不足といった課題も見えてきた。NPO法人「子どもセンター・ピッピ」はピッピの運営を担うボランティアを募集し、14、15両日、さいたま共済会館（さいたま市浦和区岸町7）で研修を開く。

子どもシェルターは、虐待で家にいられなくなった子や、家庭の事情などで安心して家

で暮らせない子を一時的に保護する施設。ピッピーは昨年2月に開設され、主に15～20歳の女性を対象に日常生活に必要な支援のほか、弁護士が関係機関との調整などをして、自立に向けた支援を行う。

事務局長の高澤史生弁護士によると、開設から、児童相談所などを通じて6人の少女を受け入れてきた。虐待のほか、貧困から費用が払えず病院を出された出産間際の少女を保護したケースもあった。一方、24時間体制で子どもたちに付き添うため、人員不足で受け入れを断らざるを得ないこともあったという。高澤弁護士は「運営してみると需要は多く、マンパワー不足を実感した」と話す。

そのため安定した受け入れを実現しようと、学習支援や食事の準備、宿泊して付き添うボランティアを募集することにした。研修では、虐待を受けた子供との信頼関係の築き方や子どもシェルターに関わる大人の役割を学ぶほか、グループディスカッションもある。

高澤弁護士は「子供の目線で寄り添ってくれる人に一人でも多く集まってほしい」と話す。定員50人（先着順）で締め切りは6日。参加費1000円。問い合わせは大倉浩法律事務所内「子どもセンター・ピッピー事務局」（048・862・1853）。【内田幸一】

ベトナム女性2人が旭川荘に就職 県内「介護」在留資格初適用へ

山陽新聞 2018年4月2日



旭川荘に就職し、辞令を手に抱負を語るベトナム国籍のトゥイさん（左）とガンさん

日本で学び、介護福祉士の国家資格を取得した外国人が「介護」の在留資格で就労できる新制度の適用を目指し、ベトナム国籍の女性2人が2日、岡山市北区祇園の社会福祉法人旭川荘に就職した。いずれも5月に“外国人介護福祉士”として登録され、岡山県内では新制度の適用第1号となる見通し。「日本語力と介護技術をさらに磨き、日本の福祉を吸収したい」と志は高い。

「日本の高齢者福祉や障害者ケアを学び、母国との懸け橋になってほしい」。この日、旭川荘での辞令交付式で末光茂理事長はこう激励。同期54人と出席した2人は緊張の面持ちで聞き入った。

日本語学校の留学生として2014年に来岡したグエン・ティゴック・ガンさん（27）、友人のグエン・キエウモン・トゥイさん（29）の2人。グループホームでのアルバイトを機に介護職に関心を持つようになり、16年に旭川荘厚生専門学院に入学。介護保険制度や実技を学ぶとともに、日本語の勉強にも励んできた。

「最初は授業についていくのも大変だったが、先生方が補習してくださり、諦めずに頑張れた」とトゥイさんは振り返る。

共に今年1月、介護福祉士の国家試験を受験し3月28日、トゥイさんは合格した。合格点にわずかに及ばなかったガンさんだが、介護福祉士資格取得の特例措置の適用を受け、いずれも5月には「介護」の在留資格を得られる見込みだ。

日本語能力試験2級を持つトゥイさんは重症心身障害児施設・旭川児童院で働くといい「言葉の壁を乗り越えたら福祉を学ぶのが楽しくなった。働きながら社会福祉士の資格も取りたい」。特別養護老人ホーム・旭川敬老園に勤めるガンさんは来年、資格取得に再挑戦する考えで「将来は母国で介護サービス業を起業するのが夢」と意欲を見せる。

旭川荘厚生専門学院には今春、ベトナム、ミャンマー国籍の計4人が入学する。末光理事長は「外国人が日本で介護を学ぶのは生活面、経済面からも大変だが、2人は向上心を持って頑張ってきた。職員たちにとっても刺激になるだけに、学びや生活のサポート態勢を充実させたい」と話した。

「介護」の在留資格 介護福祉士養成校を卒業した留学生が、介護福祉士の国家資格を

取得すれば得られる資格。2017年9月施行の改正入管難民法で新設された。国は17年度、養成校卒業後も国家試験に合格しなければ介護福祉士の資格を与えないよう制度改正したが、21年度までの5年間は合格しなくても介護福祉士登録できる特例措置を設けた。

この人！ 「ニコちゃんの会」認定NPO代表理事 森山淳子さん /福岡

毎日新聞 2018年4月2日

障害者福祉にユニークな視点 ケアコミュニティハウス建設目指し 森山淳子さん（52）
＝城南区

重い病気や障害があっても、心豊かな人生を生き抜くことができる社会を目指し、2012年に「ニコちゃんの会」を設立した。重度心身障害児・者向けの福祉サービスだけでなく、非日常の体験を楽しむ「よかプロジェクト」、障害の有無にかかわらずさまざまな人が同じ舞台に立つ「すっごい演劇アートプロジェクト」など、ユニークな活動を続けている。『福祉をやっている』という感覚はないんです」とほほ笑む。

福岡市出身。重い障害がある娘を1991年、3歳で亡くした。娘の死をきっかけに、重度心身障害児の親たちとコミュニケーション誌「ニコちゃん通信」を発刊。同じような立場の人たちとの情報交換やネットワーク作りを目指し、多い時で全国の会員は800人に上った。

数年後、病院の待合室で障害を持つ子どもとその母親と出会った。娘を亡くした話をしたところ、「大変だったですね。でも、ちょっとほっとしましたね」と言われてショックを受けた。「そう言わせてしまう社会のあり方を変えなければ」「子どもを亡くした経験のある親として何かできるはず」と思い、96年から外出しづらい子どもや家族に非日常を味わってもらおうと、キャンプやスキーなどの余暇活動を展開した。こうした取り組みは、今の活動の礎になっている。

非日常に取り組むことが「日常のところを支えなければ」との思いにつながる。次の段階に進むため、認定NPO法人の設立を決意。2010年4月から2年間、九州大大学院統合新領域学府のユーザー感性学専攻で、看護や心理学など幅広い分野を実践的に学んだ。大学院で出会った若者たちが同じ道に進み、ニコちゃんの会のスタッフとなったことも収穫と言う。現在、1歳から40代まで70人以上が会の福祉サービスを利用しており、障害を持つ人と家族の日常のサポートも広がっている。

会設立時からの大きな目標は、重度の障害を持つ人を安心して預けられる「ケアコミュニティハウス」の建設だ。福岡市との共働事業で24時間の医療的ケアが必要な子どもを預かった時、家族から「ゆっくりと過ごせた」と声を掛けられた。つきっきりでケアする家族から望む声も多く、実現を目指している。

「これまでの活動はどれも私一人では、できなかったこと。いつも仲間に助けられ、支えられて活動できた」。これからも頼れる仲間たちと歩みを進めていく。【山崎あずさ】

作品展 自閉症の子ら 8日まで 県庁で絵画など40点 /茨城

毎日新聞 2018年4月3日

県内に住む自閉症の大人と子供が制作した絵画や切り絵などを集めた作品展が県庁2階の県政広報コーナーで開かれている。8日まで。国連が定める世界自閉症啓発デー（2日）と国の「発達障害啓発週間」（2～8日）に合わせた催しで、自閉症など発達障害への理解を深めてもらうのが目的だ。

展示された作品約40点はどれも力作で、東海村の川崎翔平さん（24）制作の卵の殻アート（縦約60センチ、横約45センチ）は、青色や黄色に塗った卵の殻の破片を貼り合わせ、ゴッホ（1853～90年）の代表作の一つ「郵便配達人ジョゼフ・ルーラン」

を再現した。

海をイメージして青く塗った画用紙に、ちぎった色紙で作ったシャチやタコ、色とりどりの魚を貼った「海のなかまたち」（縦約70センチ、横約100センチ）は、障害福祉サービス事業所「鹿島育成園アイリス」（潮来市）の20～70歳代の利用者12人が約1カ月かけて制作したという。

以前、相談支援専門員として担当した子供の作品を見に来た水戸市城南の宇留野高嗣さん（36）は「作品を通して、話すことが苦手な子供の別の表情が見られる」と感慨深げだった。【吉田卓矢】

青き石川門 桜に映え 自閉症啓発デー



中日新聞 2018年4月3日

世界自閉症啓発デーにちなみ、青色にライトアップされた石川門＝金沢市の金沢城公園で

国連が定める「世界自閉症啓発デー」の2日、金沢市の金沢城公園の石川門がシンボルカラーの青色にライトアップされた。自閉症などの発達障害について広く知ってもらおうと、世界約百五十カ国で実施。石川県では二〇一三年から毎年行っており六回目。

金沢城公園であった点灯式には、当事者や支援者ら約百三十人が参加した。主催する県自閉症協会会長の宮下浩二さん（72）が「町

が自閉症に慣れて、自閉症の人も町に慣れる社会になることを願う」とあいさつした。

点灯式に先立ち、青のペンライトを照らしながら金沢市役所から石川門までの約一キロを歩く「ブルーライトウォーク」もあった。

富山市本丸の富山城も青色にライトアップされた。富山県が毎年実施しており、八日までの日没から午後十時まで点灯される。（稲垣達成、酒井翔平）

風船飛ばし自閉症啓発 本宮実行委



福島民報 2018年4月3日

願いを込めて風船を空へと放つ参加者

国連が定める2日の「世界自閉症啓発デー」に合わせ、本宮市の世界自閉症啓発デー本宮実行委員会は同日、市内の本宮市民元いきいき応援プラザ「えぼか」で、バルーンリリースなどを通して啓発活動を繰り広げた。

実行委員長の遠藤美華さんらスタッフ、本宮、二本松、大玉の3市村の福祉施設利用者、本宮ライオンズクラブ会員、来館者ら約100人が参加した。高松義行市長の合図に合わせ、啓発のシンボルカラーである青色の風船を一斉に空へと放った。

啓発デーの取り組みは国内外で広がりを見せているが、県内ではまだ認知度が低いのが現状。遠藤さんらは来館者にリーフレットを配るなどして自閉症をはじめとする発達障害への理解を求めた。

会場では啓発週間の8日まで、青を基調とした「ブルーツリー」を展示している。ツリーには自閉症の子どもや来館者が願い事などを書いた青い紙を飾っている。

感度高い学生どっと FACE to FUKUSHI が就職フェア



福祉新聞 2018年04月03日 編集部
カフェのような雰囲気で説明を聞く学生ら

2019年3月卒業予定の学生を対象にした福祉就職フェアが3月21・22日、都内で開かれ、大学生ら約300人が訪れた。スーツは禁止で、出展法人ごとに仕切るついてもなく、カフェのような雰囲気の中、法人職員と学生が熱心に話し込んだ。主催は一般社団法人FACE to FUKUSHI。

各日を午前・午後に分けて計4部とし、各部15法人ずつ計60法人が出展した。それぞれの冒頭で出展法人を各30秒で一気に入れ、学生は気になる法人のブースで説明を聞いた。説明は20分で区切って、3回繰り返した。細かく区切ったのは、顔が見える関係で就活でき、より多くの法人を見てもらうため。

また大学4年生の就活相談や、法人の人事担当者が採用について語るプログラムなどもあった。

午前・午後とも参加した人にはお弁当を、4法人を回った人にはクオカードをそれぞれプレゼントするなど、学生にいろいろな法人の話聞いてもらうための工夫も凝らした。

学生からは「会場がおしゃれで居心地よく話しやすかった」「福祉系大学ではないが児童分野に興味があって情報収集にきた」といった声もあれば、「法人の職員同士の会話から職場の雰囲気を感じ取っている」という鋭い視点も。

法人は関東だけでなく、北海道、新潟県、京都府などからも出展。育休中の職員が子連れで参加したり、フェア用に衣装を作ったり、それぞれ学生にアピールした。

岩本恭典・事務局長は「もともと福祉で働きたい人はいるが、きっかけづくりができていなかった。そこに応えられれば、まだ人材を確保できるはず」と語った。

貧困対策に意欲 酒井教育長就任会見

大阪日日新聞 2018年4月3日



子どもの貧困問題を踏まえた学力向上策に意欲を示した酒井教育長＝2日、府庁

大阪府教委の新教育長に就任した酒井隆行氏（58）は2日、教育行政への抱負について府庁で記者会見し、子どもの貧困問題を踏まえ「全ての子どもに確かな学力を定着させるのが重要」との認識を示した。小学校入学前の対策から、家庭向けの情報発信の在り方まで、府福祉部長の経験を生かして手法を検証していくという。

酒井教育長は、子どもの貧困対策に取り組んできた経緯を踏まえ、「貧困は子どもたちから多くのものを奪う。連鎖を断ち切るためには教育の力が極めて大きい」と強調。学力の定着に向けた基盤となる力として、やる気や粘り強さといった「非認知能力」の育成を重視した。

対策として、これまで府教委で取り組んできた小中高向けの外部連携に加え、幼児期を支えるための仕組みづくりに着目。家庭への働き掛け方も含めて検証していく。

家庭の経済的課題についても、既存の支援制度が十分に知られていないと指摘し、関係機関と共に発信力を強化できないか模索する。

初めての出勤 2018

NHKニュース 2018年4月2日

4月2日は新年度が始まって最初の平日。ネット上には、「初出勤」や「新社会人」に関す

るつぶやきがあふれています。一人ひとりの声と思い、追ってみました。(ネットワーク報道部記者 飯田暁子・大窪奈緒子)

新入社員たちの朝

早朝。初出勤を前に新社会人たちが続々とネット上に気持ちをつぶやきます。

「初出勤、緊張しすぎて吐きそう」

「楽しみ半分、不安半分。はやく仕事覚えられるように頑張ろ」「初出勤緊張する働きたくない…」

「気合い入れて笑顔でがんばるぞ〜!!!」

電車に乗ってもつぶやきは続きます。

「初出勤、満員電車はキツイ、、、」

「初出勤で電車が遅れるとか笑えない」

「乗る電車間違えた。初出勤から遅刻かも」

こうした姿を見かけた先輩社会人も負けずにつぶやきます。

「電車で新社会人らしき若者たちがいる。ピカピカの革靴の履き心地を確かめる人、ネクタイがぴしっとしめられていない人など。頑張れ！」

新社会人は、会社の前に到着してもつぶやいています。

「初出勤やったから早めに来たら早すぎてもう20分くらい会社の近くで待ってるんやけどもう入ってもいいかな・・・？」

ツイートやめて早く入ってください！

緊張の母親たちも

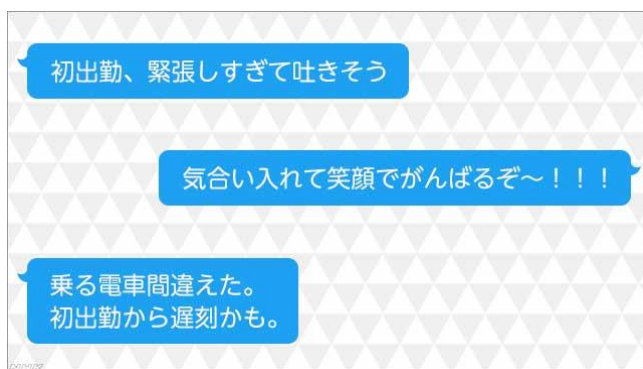
緊張しているのは新卒採用者だけではありません。

きょうから保育園に子どもを預けて仕事に復帰した母親たちもつぶやきます。仕事が医療関係なのでしょうか。

「産休明け、3か月ぶりの仕事だし、診療改訂したばかりだし、切り替えに脳内大パニック」

子どもが複数いる母親は。

「今日から仕事復帰。初出勤みたいな感覚。不安しかない…歩いて学童クラブ→保育園(長女)→保育園(次男)で1時間かかった。すごく余裕を見ていたのに、結果、出勤ギリギリ」
初出勤を見送る親たち



初出勤の子どもを見送る親からも多くの書き込みがありました。

スーツで初出勤する18歳の次男の後ろ姿とともに「パパと同じ電車で初出勤！頑張れ二号！」と投稿した、母のむぎっこさん。

むぎっこさんは次男に大学への進学を薦めましたが、次男は「やりたい仕事をしたい」と信念を曲げず国家公務員の道を選びました。さわやかな笑顔で「行ってきます！」と家を出て行く姿を見送ったむぎっこさん。

「背中が大きく見えて思わずうれしくて涙が出てしまいました」と話していました。

ちなみに次男の左側を歩いていた父親はあえて写真には入れなかったようですが、「一緒に通勤がうれしそうだった」ということです。



一方、こちらはおいしそうなお弁当の写真。

「母はもう昨夜からドキドキですが、本人に悟られなきように平然を装っています」

ツイートした柚花さんにお話を聞くことができました。いつもより30分ほど早く起きて初出勤する18歳の息子のために、ウインナーやミートボールなど息子の好物がたっぷり入ったお弁当を作ったそうです。

その息子さんは小学校3年生ごろから不登校になり、中学校まで続いたそうです。通信制の高校で学びながら就職活動をしましたが、不登校だったことを面接で話すと採用担当者の態度が急変し不採用になることも。そんな中でも不登校だったことに理解を示し、「一緒に楽しく働いていこう」と言葉をかけてくれた社長の経営する企業に就職が決まりました。



ここ1週間ほど、息子さんの態度から不安や緊張を感じたという柚花さん。けさは、「頑張ってきてね」という言葉をぐっと飲み込み、「せっかく採用してもらったのだから、まずは行ってみよう」と声をかけ笑顔で見送ったということです。

それぞれの入社式

各地で行われたさまざまな企業などの入社式。NHKも各地で取材しました。

「不正会計をはじめ3年にわたり困難な状況に直面しましたが、新しいスタートラインに立ちました。危機とも言われたなかで選んでくれた皆さんは真の仲間」と会長が呼びかけたのは、2年ぶりに入社式が行われた経営再建中の「東芝」。



アメリカが鉄鋼製品の輸入を制限する異例の措置を発動する中行われた「新日鉄住金」の入社式では、社長が、「取り巻く環境は楽観できるもので

はない」と厳しく訓示しました。

一方、ある官庁の新人職員のあいさつ。

「上司の職務上の命令に従い、不偏不党かつ公正に職務の遂行にあたることを固く誓いま

す」

佐川前長官が辞任した国税庁の入庁式での言葉です。

入社式終わった！

お昼どきになると、入社式を終えた新社会人の書き込みが相次ぎました。

「入社式終わった！同期めっちゃいい奴らだしこの会社なら切磋琢磨して成長できそう」

「これから社会人として頑張っていくぞー！」

多かったのは緊張や疲れを訴えるもの。

「入社式終わったー、既にめちゃくちゃ疲れてる」

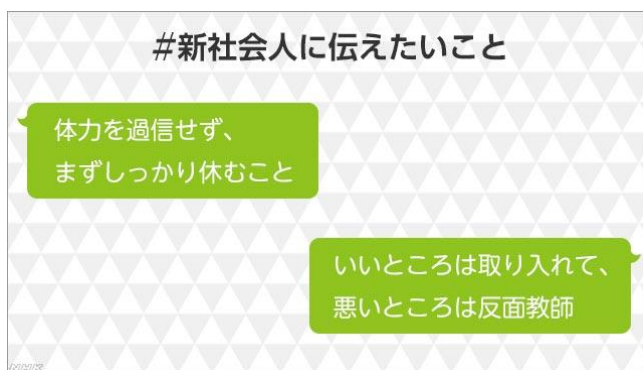
「入社式緊張したな、自己紹介1番最初だったから余計疲れた」「明日から仕事とか考えられない」

「明日から本格的に8時～5時出勤だ、、、」



伝えたいこと

こんな新社会人に向けてツイッターには「新社会人に伝えたいこと」といったハッシュタグが作られ、先輩たちからのアドバイスが次々と投稿されています。



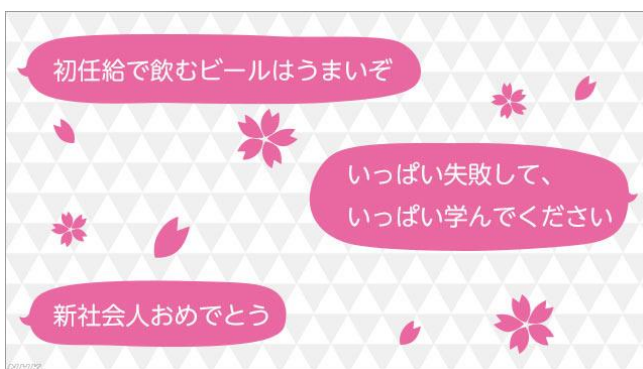
「力が入って気づいていないだけで相当なストレスがかかっています。体力を過信せず、まずしっかり休むこと」

「とにかく挨拶しましょう」

「学生時代と違って会社は様々な世代があるのでいろんな考え方がある。いいところは取り入れて、悪いところは反面教師」

「最初から完璧にできるやつなんていない！大事なのはどうリカバリーするかだ！」

最後にこんなメッセージを選んでみました。



「まずは1か月の我慢。初任給で飲むビールはうまいぞ」

「いっぱい失敗して、いっぱい学んでください」

そして「新社会人おめでとう！」

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

